

「新しい東北」官民連携推進協議会

平成28年度活動報告 及び 平成29年度活動計画(案)

平成29年2月15日

「新しい東北」官民連携推進協議会 事務局

平成28年度活動報告

1. 協議会の現状について

1. 協議会及び分科会の構成

「新しい東北」官民連携推進協議会（平成25年12月17日設立）

- 民間企業・大学・NPO等各種団体・地方自治体等から構成。（1287団体（平成29年2月1日現在）、昨年度末比356団体増）
- 官民の様々な主体の間で連携を生み出し、復興を契機とした新たな挑戦を促進。
具体的には、ウェブサイトや会員交流会の場で、各主体に関する情報（課題、ノウハウ、リソース）の共有や連携を促進。

各種課題に対応するため、協議会の下に3分科会を設置し、内容拡充

地域づくりネットワーク

（平成27年2月設立）

- 被災地の地方自治体から構成（71団体）
- 官民連携の体制整備や課題解決に向けた具体的な取組を推進するため、成功事例のノウハウの共有や意見交換を実施。8月の交流会では、「観光振興・交流人口の拡大」をテーマに、基調講演、民間企業の取組事例紹介、意見交換会、自治体版ハンズオン支援事業取組発表等を行った。
- 「ノウハウや情報の共有」「課題解決のサポート」「自治体組織の活性化支援」の3本柱で取組。

復興金融ネットワーク

（平成26年7月設立）

- 金融機関等から構成（35団体）
- 官主導の取組による復旧から、民主導の取組による本格的な復興への橋渡しを行うため、金融機関等に対し、産業復興に関する情報の提供等を実施。
- 被災地の事業者に対して資金供給を呼び込むため、復興ビジネスコンテストを開催。優良な取組を発掘するとともに、事業化や事業の発展に向けた効果的な支援を実施。

企業連携グループ

（平成27年4月設立）

- 企業復興支援ネットワーク、専門家派遣集中事業、販路開拓支援チームなどの機能を集約して提供。
- 「販路開拓支援チーム」は、民間企業や協力団体等から構成（平成26年11月設立。29団体、オブザーバー2団体）
- 地方自治体、産業支援機関、商工会議所・商工会等の企業支援担当者、企業支援の専門家、民間復興支援団体・組織等が連携して、産業復興の中核を担う被災地域の民間企業による創造的な事業活動への挑戦を支援。

1. 協議会の現状について

2. 会員団体の構成

(1) 会員団体の属性

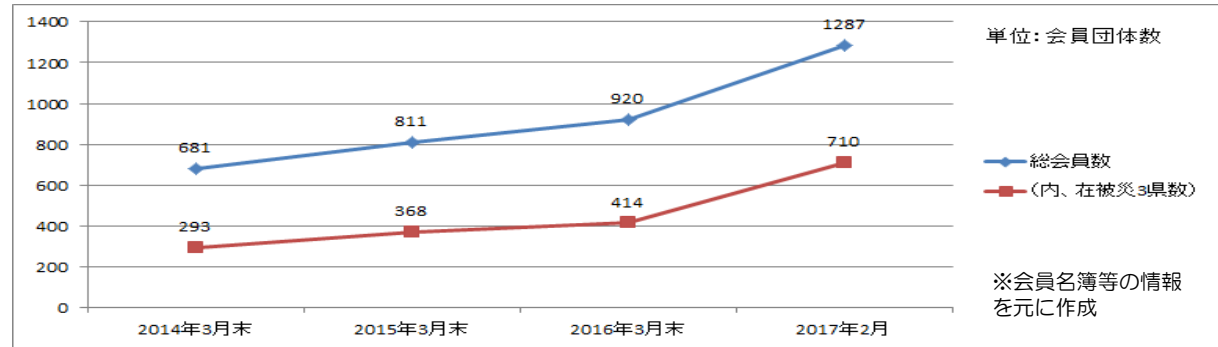
カテゴリ	団体数	割合
代表・副代表	21	2%
経済団体	85	7%
民間企業	411	32%
各種協同組合等	61	5%
NPO法人	43	3%
公益法人等	107	8%
独立行政法人等	20	2%
大学等	114	9%
先導モデル事業	228	18%
地方自治体等(都道府県)	37	3%
地方自治体等(市町村)	136	11%
府省庁	24	2%
合計	1,287	100%

※平成29年2月1日時点

【被災3県内の団体の割合】

所在地(県)	団体数	割合
被災3県合計	710	55%
岩手県	133	10%
宮城県	332	26%
福島県	245	19%
被災3県以外	577	45%
合計	1,287	100%

(2) 会員数の推移



- ・会員数は1000を超えるなど、着実に増加。
- ・本年度は協議会発足以来はじめて、被災3県内の会員数が総会員数の過半数を占めるに至った。

○事務局からの会員勧奨について(平成28年度)

- ・協議会として、被災地内外の団体による復興活動の情報を幅広く収集する観点から、復興に携わる団体のうち非会員である団体に対し、協議会会員への加入勧奨を実施。
- ・復興庁の事業や、これまでの「新しい東北」の取組に係る団体を中心に、事務局より電話・メールによる勧奨を実施。特に、被災3県内に所在する団体から重点的に抽出した。

2. 平成28年度の主な活動

＜昨年度運営委員会で提示した課題及び平成28年度の対応＞

1. 情報発信の強化

- 震災から5年が経過したことを踏まえ、平成28年6月を「東北復興月間」とし、震災の経験・教訓を広く共有し、同時に復興の現状を国内外に正確に情報発信することを目的とした復興関連イベントを東京で開催。
 - ✓「東日本大震災5周年復興フォーラム ～新たなステージ 復興・創生へ～」
 - ✓「交流ミーティングin東京 ～『新しい東北』を創る人々～」
- ウェブサイトについて、復興の現状を幅広く情報発信する観点から、協議会会員以外からのアクセス増加に繋がるよう、特集記事の掲載等を実施。
- 「新しい東北」の成果や東北の魅力を幅広く情報発信する「新しい東北」情報発信事業を実施。

2. 民間等の関係者との連携強化

- 被災3県で1回ずつ、「新しい東北」交流会を開催し、復興関係者間での情報共有・連携を促進。
 - ✓11月19日 福島県郡山市 テーマ：産業・生業の再生
 - ✓12月17日 岩手県釜石市 テーマ：地域コミュニティ活性化
 - ✓2月9日 宮城県仙台市 テーマ：「これからの担い手」づくり
- 昨年度創設した「連携支援制度」に加え、新たに「連携セミナー制度」を創設し、会員をはじめとした復興に携わる関係者間での連携を促進。

3. 先進的な取組の普及・展開の強化

- 平成27年度で「新しい東北」先導モデル事業が終了したことも踏まえ、これまでに蓄積されたノウハウの普及・展開を強化するため、新たな取組を実施する自治体に対するきめ細かな支援（自治体版ハンズオン支援）等を実施。
- 「新しい東北」の実現に貢献していただいている者・団体を顕彰する「新しい東北」復興・創生顕彰を新たに創設。被災地で進む取組を幅広く発掘し、情報発信することにより、普及・展開を目指す。

2-1. 情報発信の強化

東北復興月間イベント①

東日本大震災5周年復興フォーラム（平成28年6月6日／東京都千代田区 「イイノホール&カンファレンスセンター」）

●【フォーラム】 13:00~15:15

- ・主催者あいさつ
- ・岩手県・宮城県・福島県知事鼎談「震災から5年の歩みと将来への展望」
- ・パネルディスカッション「新たなステージ 復興・創生へ～「民」から見た教訓と今後の課題～」↑パネルディスカッション>

●【分科会】 12:30~17:00

①産業となりわいの再生

- ・被災地企業の成果 / 大手企業による被災地支援の取組 / 復興庁の取組の紹介
- ・被災地で活躍する女性企業家エリアを設け、女性経営者の活躍を紹介

②防災・まちづくり

- ・津波被災市町村長等によるパネルディスカッション「今後の災害に備えた将来への提言」
- ・学生、民間団体による先進的な防災・まちづくりの取組に関するパネル・映像展示、ミニプレゼン

③福島情報発信

- ・福島復興や放射線量の現状など、福島の「今」を伝える展示や取組発表
- ・パネルディスカッション「若者にとって魅力ある福島を目指して」

④コミュニティ

- ・復興公営住宅でのコミュニティ形成や、コミュニティ形成を支える人材の育成について議論
- ・被災地で進む取組の紹介



<取組発表>



<参加者からの声>

・3県の知事より現場の声を聞く事ができて貴重な機会となった。・企業として継続して東北でビジネスを拡大できるよう努力したい。・災害に対して強いまちづくりに関わりたい思いが強まった。・「福島情報発信」が良かった。・ミニコンサートが素晴らしかった。

2-1. 情報発信の強化

東北復興月間イベント②

交流ミーティングin東京（平成28年6月11日～28日／東京都千代田区「3331 Arts Chiyoda（アーツ千代田 3331）」）

- 「若者」DAY（6/12（日））
 - ・ 「新しい東北」作文コンテスト 表彰式
 - ・ 被災地の高校生等による復興の取組発表
 - ・ 日本の将来を担う若者との意見交換
 - ・ 全国から集った大学生によるワークショップ
- 「アート」DAY（6/19（日））
 - ・ 仮設住宅でのサイン展示の取組の紹介等
 - ・ 気鋭な写真家等によるトークショー
 - ・ アートを通じた取組を体験できるワークショップ
- 「女性活躍」DAY（6/26（日））
 - ・ 被災地で活躍する女性による発表
 - ・ 女性が活躍するために必要なこと等について考えるパネルディスカッション
- 「新しい東北」マルシェ（6/11（土）～12（日））
 - ・ 東北のおいしいもの・特産品等の販売
 - ・ 出展者と来場者が交流できるエリアの設置
- 「新しい東北」写真展（6/11（土）～28（火））
 - ・ 被災地で「新たな挑戦」に取り組む「人」にフォーカスを当てた写真展示

< 「若者」DAYオープニング >



< 「アート」DAY・カホン演奏 >



< パネルディスカッション >



<参加者からの声>

・ マルシェを通じて、人間が生きていく上で大切な、食を通じた人と人とのつながりを強く感じた。・ 被災は終わったことではなく、これから新しく変化していかなければいけないことだと感じた。（写真展）・ 色んな人が色々な形で記録、記憶に残しているなと思った。（写真展）

2-1. 情報発信の強化

ウェブサイトの強化①

●協議会Webサイトについて

- ・「新しい東北」官民連携推進協議会Webサイトは平成26年1月に開設、Webページ内の動線等の改修を毎年度実施。
- ・平成28年度は、協議会会員以外からのアクセスも呼び込むことを目的としたサイトの改修を実施。
- ・Webサイトに掲載するコンテンツについても、「量」だけではなく「質」を重視。

(補足情報)

・2016年12月のWEBサイトアクセス情報

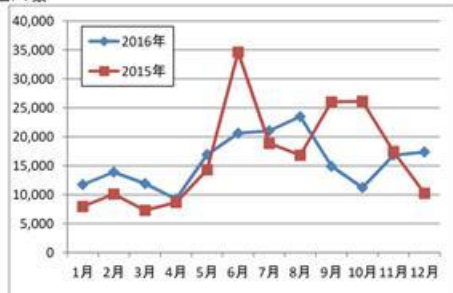
①月刊アクセスサマリ

■月別アクセスサマリ

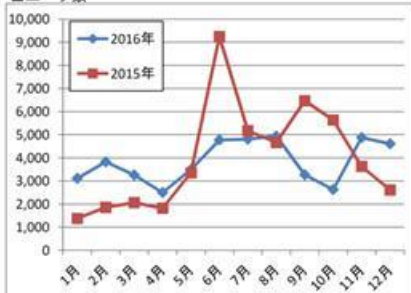
項目	2016/1	2016/2	2016/3	2016/4	2016/5	2016/6	2016/7	2016/8	2016/9	2016/10	2016/11	2016/12	前月比
セッション	4,115	5,390	4,394	3,349	5,208	7,069	7,107	7,913	5,092	3,974	7,264	6,896	-368 (-5.1%)
ユーザ	3,113	3,823	3,263	2,495	3,495	4,775	4,810	4,939	3,267	2,629	4,875	4,610	-265 (-5.4%)
PV数	11,730	13,863	11,910	9,243	16,927	20,580	21,053	23,497	14,900	11,207	16,793	17,381	588 (3.5%)
PV/セッション	2.85	2.57	2.71	2.76	3.25	2.91	2.96	3.28	3.21	2.83	2.31	2.52	0.21 (9.1%)
平均セッション時間	02:25	02:16	02:37	02:29	03:38	02:57	03:21	04:07	03:44	02:40	02:10	02:52	00:42 (32.3%)
直帰率	60%	62%	61%	60%	53%	58%	59%	55%	59%	58%	61%	59%	-1.9 (-3.1%)
新規セッション率	62%	59%	64%	65%	60%	60%	60%	53%	53%	56%	60%	58%	-1.4 (-2.4%)

②月間アクセス状況の前年との比較 (PV数とユーザ数)

■PV数



■ユーザ数



・WEBサイトのアクセス状況について、2016年12月は単月累積で17,381PVであり、不特定多数の閲覧者を対象として設計されたWEBサイトとしては、さらなる向上が求められる。

・一方で本年度10月以降は、サイト改修に伴い月間アクセスも前年度比で上回るなど、改善基調に転じている。

2-1. 情報発信の強化

ウェブサイトの強化②

●協議会Webサイト強化施策

(1) 協議会Webサイトのスマートフォン対応

- ・協議会会員のみならず協議会会員以外からのアクセスに対応することが課題と認識
- ・協議会会員以外からのアクセスは、個人が所有するスマートフォン経由のものが多いことから、スマートフォンからのコンテンツ閲覧による情報発信力を強化
- ・スマートフォン表示対応にあたりすべての記事ではなく、協議会として特に発信したい分野の記事に限定して対応
- ・スマートフォン対応に加え、SNSボタンの設置によりシェアされやすい構造、より情報が拡散しやすい仕組みづくりを実施

(2) 外部ライター起用による特集記事作成

- ・読者が実際に東北へ行きたくなるような記事を外部ライター起用により10本作成

■記事概要（取材場所は予定も含む）

記事名称	みちのくみっけ～あれから6年「新しい東北」の今を巡る旅～	
執筆者	飛田恵美子氏	
取材場所	宮城県	南三陸町、石巻市、気仙沼市
	岩手県	大槌町、陸前高田市、釜石市
	福島県	いわき市、南相馬市、会津若松市

■特集記事具体例

「みちのくみっけ Vol.1 南三陸編 1日目（平成28年12月27日掲載）」
（冒頭文章）

取材で何度も東北を訪れている。そう話すと、「偉いね」と言われることがよくあります。「東北＝ボランティアに行くところ／支援するところ」と思っている人が、それだけ多いということでしょう。でも、私はその言葉に少し違和感を感じます。だって、東北には美味しい海の幸も、心癒される風景もあります。脈々と続いてきた地場産業もあれば、震災後に新しく始まったプロジェクトもあります。そして、自分たちの手で町を再建しようと奮闘する人々の姿があります。東北はいつも、私にたくさんの学びと刺激を与えてくれるのです。

旅の目的地としての東北の魅力を、もっとたくさんの人に知ってもらいたい。そんな想いから、地域で暮らす若者と一緒に、「1泊2日観光モデルプラン」をつくることにしました。この連載では、実際にそのプランに沿って町を回って体験したこと、感じたことを綴ります。新しい東北の光を発見する1泊2日の旅。第一回で訪れるのは、豊かな海と山に囲まれた町・南三陸です。

2-1. 情報発信の強化

「新しい東北」情報発信事業

- 東北での意欲的な挑戦や先導的な取組を行っている民間等と共同（コラボ）して、「新しい東北」の魅力や、風化の防止や風評の被害の払拭に向け、民間等のネットワーク等を活用し、被災地や復興に関心が高い人だけではなく、広く全国に発信することにより広範かつ継続的な復興の輪の拡大を図る。
- 平成28年度は、「新しい東北」における東北の挑戦や魅力を多角的かつ幅広く全国に発信するため、「酒」、「食」、「技」、「町」、「旅」、「人」の6テーマを設定し 6事業を選定（7月）

主な取組実績（「技」(株)文化放送×よしもと芸人）

○東北6県入魂！ストリート～文化放送×よしもと住みます芸人「新しい東北」職人技プロジェクトwith復興庁（平成28年11月5日（土）、6日（日）横浜赤レンガ倉庫 イベント広場）

（主な内容）

- ・東北6県在住の伝統工芸の職人の方を招聘し、販売や実演、制作体験を実施（10店舗）。
- ・よしもと芸人によるステージイベントの実施（千原せいじさん及びよしもと住みます芸人とのトーク）



○「千原せいじ、住みます芸人の東北6県入魂！」(ラジオ番組) 文化放送や毎日放送9月～12月全13回

- ・東北6県住みます芸人が地元で見つけてきた伝統工芸品の技や職人の紹介等を番組内でPR。



○イベント来場者数(2日間):
延べ105,000人



○SNSでの拡散(9月末から1月末まで):
延べ約60万リーチ

○WEBサイト(9月末から1月末まで):
延べ約50万PV



○取材記事:
朝日新聞やサンケイスポーツ等掲載

【主な感想】

- 東北6県の伝統工芸ブース出展者10社も、工芸品をPRするチャンスを作ってくれて感謝する。
- 実際に“作り手”の方々からの説明を聞けるのが良かった。等

2-2. 民間等の関係者との連携強化

「新しい東北」交流会の開催

「新しい東北」交流会 in 郡山（平成28年11月19日/福島県郡山市）（テーマ：産業・生業の再生）

<パネルディスカッション>

- 「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2016 表彰式
- パネルディスカッション ～農業が語る未来のふくしま～
- ワークショップ（日本IBM(株)と連携した学生・NPO等に対するプロジェクトマネジメント・ワークショップ）
- ブース展示（ビジネスコンテスト受賞14団体・「高校生が伝えるふくしま食べる通信」・「ほやほや学会」の16団体が出展）
- フードコーナー（「かんの屋」及び「おうせ茶屋」による出品）
- ミニプレゼンテーション（「新たな挑戦」に取り組む6名がプレゼンテーションを実施）



<参加者からの声>・パネルディスカッションでのパネリストの実践活動報告を聞き、農業の新しい取り組みに大いに期待ができると思った。
・パネルディスカッションの時間が不足で勿体なかった。・同年代の高校生との異文化交流で、農業以外の意見を聞き、とても参考になった。

「新しい東北」交流会 in 釜石（平成28年12月17日/岩手県釜石市）（テーマ：地域コミュニティ活性化）

<シンポジウム・映画上映>

- パネルディスカッション ～東北が目指す地域コミュニティとは何か?～
- ピッチ大会（『地域コミュニティの活性化の取組の紹介』）
- シンポジウム・映画上映（『この世界の片隅に』上映・片淵監督と丸山プロデューサーを囲むシンポジウム）
- セミナー・ワークショップ（高校生向け『地域でクリエイティブに働く事例を学ぼう!』）
- 東北と熊本をつなぐローカルメディアの輪（くまもと食べる通信 代表林 信吾氏によるトークセッション）
- テクノロジーを体感！ 親子で遊ぶ魔法のようなプロダクト（絵本づくり体験企画）



<参加者からの声>・現状を把握できて非常によかった。今後に活かしたい。・いろいろな問題を様々な視点から見ることの大切さを学んだ。・親子で楽しめたのがよかった。・素晴らしい映画だった。・「ピッチ大会」の事例を活用してみようと思った。・ワークショップの内容が良かった。

「新しい東北」交流会 in 仙台（平成29年2月9日/宮城県仙台市）（テーマ：「これからの担い手」づくり）

- 「新しい東北」復興・創生顕彰等顕彰式/「企業による復興事業事例」の顕彰式
- パネルディスカッション～テーマ『これからの東北を支える担い手づくり』
- 復興支援インターン取組発表（㈱ヤマトミ・森永乳業(株)による商品開発）
- Support Our Kids 取組発表（復興プロジェクト「HABATAKI」について発表）
- 震災と意志について－復興のあとに残すもの－
- （同時開催）東北インバウンド・コラボレーション相談会（市内別会場）

2-2. 民間等の関係者との連携強化

連携支援制度

- 協議会の会員が他団体と連携し、新たな取組を実施することを支援する制度（平成27年8月創設）
- 協議会活動の一環として、会員が他団体と連携して取組むワークショップ等の開催経費の一部（1件につき上限20万円）を支援するとともに、当協議会ウェブサイト等を通じた周知広報の支援等を行うことで、当協議会会員の連携の促進を図る。

■これまでの支援実績（平成28年度支援採択21件（平成29年1月迄））

団体名	事業名
1 公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	復興・防災を進めよう！地球環境に優しい住宅の見学会・セミナー・交流会in南三陸
2 全国大学生生活協同組合連合会	ふくしま被災地スタディツアー
3 株式会社ライフブリッジ	第2回東北インバウンドサミット
4 特定非営利活動法人日本こどものための委員会	セカンドステップ仙台研修会
5 気仙沼信用金庫	気仙沼メカジキ試食会
6 公益財団法人オイスカ	宮城県名取市海岸林再生プロジェクト10年計画の事業報告
7 一般財団法人全国地域情報化推進協会	APPLIC地域情報化促進ワーキング交流勉強会2016
8 ふるさと豊間復興協議会	「赤坂通りまちづくりの会」「尾山台団地自治会」との意見交換交流会
9 宮城県多賀城高等学校	日本の服飾文化とリユースの実際
10 日本冒険遊び場づくり協会	第7回日本冒険遊び場づくり全国研究協集会
11 公益財団法人地域創造基金さなぶり	寄付のチカラ2016 ～欲しい未来へ・地域のささえあい～
12 株式会社新福島産業プロデュース	被災地域におけるバイオマス産業化の可能性を考えるワークショップ
13 特定非営利活動法人クリエイティブあいち	東日本大震災経験者が語る、南海トラフ大地震防災・減災シンポジウム
14 公益財団法人オイスカ	海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画 報告会(香川)
15 公益財団法人オイスカ	海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画 報告会(徳島)
16 一般社団法人RCF	フィッシャーマンズリーグ食育プロジェクト
17 一般社団法人RCF	岩手県水産物の高付加価値に取り組む研修会
18 株式会社新福島産業プロデュース	「被災地域における『水』の問題点と産業化の可能性を考えるWS」
19 特定非営利活動法人災害支援団体ネットワーク	協働型災害訓練in杉戸
20 企業組合コンサルジェ	岩手県宮古市小国地域の女性農業者たちによる新事業活動支援
21 南三陸町里山交流協議会	人が集う里山を考える 第一回勉強会

■支援例（NPO法人日本こどものための委員会）

特定非営利活動法人日本こどものための委員会主催による「セカンドステップ仙台研修会」が連携支援制度に採択され、平成28年11月13日に実施された。本研修会は、宮城県仙台市のH2Oカウンセリングセンター様や、講師である国際医療福祉大学の木村秀 助教との連携により開催された。

開催概要：

日本こどものための委員会は東北復興支援事業の一環として、2013年から（10年間継続を目標）、岩手、宮城、福島県で子どもの教育に携わっている方を対象に、「キレない子どもを育てる」セカンドステップ研修会を受講料無料で開催している。本事業は寄付金により実施しているものの、震災から5年半経ち寄付金が少しずつ減るなか、連携支援制度の支援を受けたことで今年度も研修会を開催することができた。

（以上、協議会HP掲載の開催報告から抜粋。会場賃借料及び講師謝金を「連携支援制度」から支援）

2-2. 民間等の関係者との連携強化

連携セミナー制度

- 協議会会員等の連携促進等を目的として、協議会の会員が復興庁による講演やブース出展等を含む「新しい東北」に関連した公開型のセミナー又はイベント等を開催する場合に、その開催にかかる経費の一部（1件につき上限50万円）や参加者の募集等について支援する制度（平成28年5月創設）
- 一般の方々が広く参加でき、参加者間の連携促進・交流を目的としたイベントであることが要件であり、この点が、連携支援制度と異なる。

■これまでの支援実績（平成28年度支援採択7件（平成29年1月迄））

団体名	事業名
1 公益財団法人地域創造基金さなぶり	東北復興支援・さなぶり5周年記念イベント
2 特定非営利活動法人 元気になるろう福島	北海道大学CoSTEPJリスクコミュニケーション
3 神戸学院大学	「東北応援」関西学生ギャザリング
4 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸	全国学生ボランティアフォーラム
5 経営支援団体NPOクラブ	新生福島創生支援セミナー ～福幸PJ 5周年 さらなる5年に向けて～
6 東北・夢の桜街道推進協議会	東北復興支援シンポジウム～桜が紡ぐ東北の未来(案)
7 一般社団法人ふくしま連携復興センター	ふくしまDay2017

● プレスリリース

「連携制度」「連携セミナー制度」を採択した事例等につき、協議会ではプレスリリース機能を活用してイベント集客等のサポートを行っている。以下はその一例である。



■支援例（公益財団法人地域創造基金さなぶり）

公益財団法人地域創造基金さなぶりが主催する設立5周年記念フォーラム「地域の支えあい、これからの地域づくり」が平成28年9月16日に開催された。本フォーラムは、連携セミナー制度により支援された取組。

開催概要：

仙台89ERSキャプテンの志村雄彦さん、元ベガルタ仙台監督の清水秀彦さん、日本ファンドレイジング協会の三島理恵さんを招聘し、復興に関係する方々が聴衆として参加した。東北復興におけるスポーツが果たした役割を学び、今後の地域づくりの中でのスポーツのあり方を議論する場となった。参加者は80名。

（以上、協議会HP掲載の開催報告から抜粋。会場賃借料及び講師謝金を「連携セミナー制度」から支援）

2-3. 先進的な取組の普及・展開の強化

- 平成27年度までに実施した「新しい東北」先導モデル事業をはじめ、これまでの「新しい東北」の取組で蓄積されたノウハウの普及・展開を強化。

<主な取組>

- ・被災自治体が地域住民・NPO・企業等の民間主体と連携して行う、地域課題解決に向けた取組について、復興庁及び支援事業者がノウハウやアイディア面での支援を実施。（自治体版ハンズオン支援事業）
- ・被災地の民間主体が行う地域課題解決の取組について、取組の定着や普及・展開に必要な支援を実施。（地域自立支援事業）
- ・「新しい東北」の実現に向けて大きな貢献をされた個人・団体を顕彰し、広く情報発信することにより、そうした個人・団体が行う取組の普及・展開を図る。（「新しい東北」復興・創生顕彰）

■自治体版ハンズオン支援事業

- 被災自治体が地域住民・NPO・企業等の民間主体と連携して行う、地域課題解決に向けた取組について、復興庁及び支援事業者がノウハウやアイディア面での支援を実施。
 - ・岩手県山田町、福島県福島市、郡山市、いわき市、国見町、楡葉町、川内村、葛尾村、飯舘村（28年4月～29年3月）
 - ・宮城県多賀城市（28年10月～29年3月）

<事例>

- ・福島県国見町では、「復興を担う人づくり」をテーマに、町に縁のある若者（大学生、高校生等）が町の将来や、自らが学びたいこと等を考えるワークショップを開催。若者の町への愛着を育むとともに、思考力や判断力を身に付けていくことを目指す。
- ・今年度は合計3回のワークショップを開催。ワークショップの内容は、取組のコアとなる若者が中心となり、町職員等と一緒に企画。
- ・ワークショップで議論した内容は、来年度オープン予定の道の駅で実施する「ヤングカレッジ」（若者への教育の場）に反映させる予定。

<ワークショップの様子>



2-3. 先進的な取組の普及・展開の強化

■地域自立支援事業

- 「新しい東北」の実現に向け、被災地の課題解決に資するとともに、被災地の自立に繋がる取組を公募。
取組の地域への定着や、更なる普及・展開を図るため、事業立ち上げに当たり必要となる経費を支援（1事業あたり最大100万円）
- また、取組の定着・発展に向けて、各団体の担い手の育成、取組の質と持続性の向上を図るため、「組織・人材マネジメント」、「資金調達」、「事業の作り方&発展のさせ方」等についての研修を実施。
- 今年度は、22の事業を採択。

■「新しい東北」復興・創生顕彰等

- 東日本大震災の発災から5年が経過し、今年度から復興・創生期間に入ったことを機に、現在、被災地で進む「新しい東北」の実現に向けた取組について、大きな貢献をされている個人及び団体を顕彰することにより、こうした個人・団体の活動を広く情報発信するとともに、被災地内外への普及・展開を促進することを目的し、制度を創設。

<募集部門>

- ①「新しい東北」復興・創生顕彰（個人部門及び団体部門）
（特に直近1年間の活動を顕彰するもの。今後も継続的に実施予定。）
- ②「新しい東北」復興功績顕彰
（集中復興期間5年間の活動を顕彰するもの。今回限り。）



<募集結果> （平成28年11月14日～12月13日 公募）

- ・「新しい東北」復興・創生顕彰 174件
（個人部門29件、団体部門145件）
- ・「新しい東北」復興功績顕彰 109件

<選定結果>

- ・「新しい東北」復興・創生顕彰（個人部門） 3件
- ・「新しい東北」復興・創生顕彰（団体部門） 7件
- ・「新しい東北」復興功績顕彰 10件

3. 分科会等の主な活動状況

地域づくりネットワーク

- 被災自治体による交流会を実施し、地域の課題解決に向けた取組、成功事例等を共有。
 - ・8月3日 @宮城県仙台市
 - ・10月28日 @宮城県仙台市
- 被災自治体が地域住民・NPO・企業等の民間主体と連携して行う、地域課題解決に向けた取組について、復興庁及び支援事業者がノウハウやアイデア面での支援を実施。（自治体版ハンズオン支援事業）【再掲】
 - ・岩手県山田町、福島県福島市、郡山市、いわき市、国見町、楡葉町、川内村、葛尾村、飯舘村（28年4月～29年3月）
 - ・宮城県多賀城市（28年10月～29年3月）
- 他地域におけるまちづくりや復興の取組を学ぶとともに、被災地内の自治体職員同士のネットワークを構築することを目的に、被災地の自治体職員に対する研修を実施。（熊本県水俣市及び新潟県長岡市において実施。）

復興金融ネットワーク

- 復興金融ネットワークの交流会等を実施し、金融機関や他地域の取組等を共有。
 - ・11月19日 @福島県郡山市
 - ・12月17日 @岩手県盛岡市
 - ・2月9日 @宮城県仙台市
- 民間企業の協賛・協力による「『新しい東北』復興ビジネスコンテスト」を実施。全国から239件の応募があり、大賞1件のほか、優秀賞3件、協賛企業による企業賞11件を表彰。
 - ・11月19日表彰式 @福島県郡山市

3. 分科会等の主な活動状況

企業連携グループ

- 被災地で新たな事業を立ち上げる企業等に対して、豊富な経験・ノウハウを持つ専門家・専門機関が単なる助言にとどまらず試作品製作や市場調査等を集中支援する「専門家派遣集中支援事業」を実施。今年度は全45件（予定）の事業者に対する支援を実施。
- 中小企業・小規模事業者等が実施する事業であって、新商品開発、販路拡大、既存商品の付加価値化・生産効率化等の新たな取組み（新事業）を支援する「被災地域企業新事業ハンズオン支援事業」を実施。今年度は全12件（予定）の事業者に対する支援を実施。
- 支援提案企業（大手企業等）と被災地域企業とのマッチングを行う「結の場」を4ヶ所（岩手県釜石市、山田町、福島県相馬市、宮城県東松島市）で開催。
- 被災事業者の再生の道しるべとするため、被災地企業の先導的・創造的な事例を収集した「企業による復興事業事例集」を作成。
- 「販路開拓支援チーム」の交流会を2月9日（@宮城県仙台市）を開催。

※その他、現在の東北の課題である観光復興や水産加工品の販路開拓に対応するため、平成28年度には、復興庁において以下のモデル事業を実施している。

●「新しい東北」交流拡大モデル事業

- ・外国人の交流人口拡大につながる新たなビジネスモデルの立ち上げを目指し、民間の取組をモデル事業として支援。
- ・「欧州サプライヤー事業者向け東北ツアー」など、13の提案を選定。

●輸出拡大モデル事業

- ・水産品・水産加工品を中心とした被災地産品の輸出の拡大を推進するため、被災地における輸出拡大モデルの構築や被災地産品に対する風評被害の払拭等の輸出に関する先進的な取組を支援。
- ・「三陸広域連携による水産物輸出プロジェクト」など、8件の提案を選定。

平成29年度活動計画(案)

1. 今後の「新しい東北」について

＜担い手、ネットワークの強化＞

- これまでの「新しい東北」の取組で蓄積されたノウハウを普及・展開するため、
- ・地域で活動を実践する「担い手」のスキル向上、マインド強化
 - ・地域内における連携体制、ネットワークの構築
 - ・地域外の関係者とのネットワークの構築
- を図る。

●新たな取組を行う自治体、NPO等に対するきめ細かな支援（ハンズオン支援）の実施

- ✓自治体に対するハンズオン支援の対象を広げ、自治体だけでなく地域の団体、NPO、企業等が連携して行う新たな取組に対し、伴走型でのきめ細かな支援（地域づくりハンズオン支援事業（仮称））を実施。取組を進めるために必要な地域内の連携、ネットワークを構築。
- ✓取組の実践に係るハンズオン支援だけでなく、スキル向上やマインド強化のための研修も併せて実施。
- ✓さらに、他地域において取組を実践する方々との交流の場を設定し、地域外とのネットワークも構築。
- ✓なお、上記の「研修」や「交流の場」は、ハンズオン支援を受ける団体のみならず、地域の自治体・NPO等の幅広い参加を得ながら実施。また、ハンズオン支援の進捗や成果については、対外的に幅広く発信。

●地域外の関係者とのネットワークの強化を通じた情報発信

- ✓被災地における「新しい東北」の取組の情報発信を促進するため、地域で活動を実践する「担い手」と地域内外のパートナーとのネットワークを強化し、発信力強化のための環境やツールを構築していく。

●「新しい東北」復興・創生顕彰

- ✓今年度新設した「新しい東北」復興・創生顕彰を引き続き実施。被災地で進む取組の発掘・情報収集、選定後の情報発信、フォローアップ等を年間を通じて行う。

1. 今後の「新しい東北」について

< 協議会の機能強化 >

- 協議会の会員数は1000を超え、復興活動を担う数多くの団体が加入。
- 協議会のこのネットワークを活かし、これまでの「新しい東北」の取組で蓄積されたノウハウを普及・展開するため、協議会の機能を強化し、各地域における「新しい東北」の機運醸成や、各会員間の連携促進や各会員の活動の活発化等を図ることが必要。

●各地域での主要関係機関の連携強化

- ✓各地域において、本運営委員会加盟団体を中心とする主要関係機関による情報共有・意見交換の場を設定。

●「新しい東北」交流会等の開催

- ✓各地域での活動を活発化させるため、各地域の関係機関が復興庁・協議会事務局と共同で企画・運営を実施する「連携型交流会」を各県1回ずつ開催。
- ✓復興庁・協議会事務局が中心に企画・運営する「新しい東北」交流会は、年間における「新しい東北」の成果の共有も兼ねて、年度末に1回開催。
- ✓風化・風評への対応も見据え、年度前半に関西で、東日本大震災からの復興のノウハウの共有や被災地の現状に対する正しい理解の促進等のための復興イベントを開催し、全国に向けた情報発信を強化。

●会員間の連携の促進

- ✓連携支援制度、連携セミナー制度により、会員間の連携を促進。
- ✓「新しい東北」復興・創生顕彰等の実施を通じ、特に若者による取組など、被災地で進む復興の取組を新たに情報収集し、また、そうした活動を行う団体とのネットワークを構築する。

2. 分科会の活動方針

地域づくりネットワーク

- 地域づくりハンズオン支援事業（仮称）により、地域の団体、NPO、企業等が連携して行う新たな取組に対するきめ細かな支援（ハンズオン支援）や担当者向けの研修を実施し、地域内の連携体制の構築や、各団体の職員のスキル向上、マインド強化を図る。
- ハンズオン支援事業を受ける団体の担当者を中心として、各地域において地域づくりに取り組む方々による交流会を開催し、ノウハウの共有や地域内外のネットワーク構築を支援。

復興金融ネットワーク

- 金融機関同士の情報共有の場として交流会を実施し、被災地の事業者に対する新たな資金供給の創出を目指す観点から、金融機関等を対象とした情報発信（産業復興の状況、優良事例等）を強化。
- 「『新しい東北』復興ビジネスコンテスト」について継続して実施し、東北地方・被災地における優良な取組の発掘、全国展開等の効果的な促進を目指す。更に、応募者に対する事業化・事業の発展に向けたアフターフォローを実施するほか、他の施策との連携も目指す。

企業連携グループ

- 被災地域企業に対する「被災地域企業新事業ハンズオン支援事業」、「専門家派遣集中支援事業」を引き続き実施し、地域の事業者が行う新商品開発、販路開拓等を支援。地域での産業・生業の再生を実践する「担い手」を強化。
- ノウハウの共有に向けた、官民の支援機関（大手企業等）とのマッチングを目的としたワークショップ（結の場）の開催。地域内外の関係者のネットワークによる課題解決を促進。

3. 平成29年度活動計画(案)

※今後、変更の可能性がある。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
官民連携推進協議会				●関西において復興のイベントを開催	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ・各地域の関係機関との「連携型交流会」を開催 </div>								●「新しい東北」交流会
	地域づくりネットワーク												
分科会	復興金融ネットワーク			●ビジネスコンテスト提案募集					●ビジネスコンテスト表彰				
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ・復興金融ネットワーク交流会を開催 </div>											
	企業連携グループ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ・販路開拓支援チーム交流会を開催 </div>											
		●「被災地域企業新事業ハンズオン支援事業」、「専門家派遣集中支援事業」、「結の場」											